

エベネゼル緊急基金
出エジプト作戦



EBENEZER
OPERATION EXODUS

彼らの回復 を助けよ！



「わたしは彼らに合図して、彼らを集める。
わたしが彼らを贖ったからだ。彼らは以前のよ
うに数がふえる。」ゼカリヤ書 10 章 8 節

イスラエルの回復を助けるクリスチャンの働き



彼らの回復を助けよ

国際



ギアン・ルカ・モロッティ
Gian Luca Morotti
国際理事メンバー(イタリア)

回復:何という言葉でしょう!想像してみてください。自分が強盗に襲われて、逃げ道のないところに閉じ込められているとしたら、自分は牢屋に閉じ込められ権利の全てを奪われ絶望して、助けを求めるても何の助けもない感じるでしょう。外側からの緊急の誰かの介入によってでなければ、このような絶望的な状況は終わることがないでしょう。

また次のことも想像してみてください。このような深い絶望の中で、すべての望みを失った時に、誰かがやってきてあなたの人生に自由を宣言し、あなたが待つ時は終わり、また助けを求める叫びが聞かれたと告げたらどうでしょう?次のような言葉を聞きます。

「あなたが悲しみと苦しみの中で過ごしたすべての年月が終わります。あなたは今から今まで経験したことのないような喜びと自由の新しい季節の中に入ります。あなたは回復されました!」あなたは、このようなすばらしい知らせをどのように受け取るでしょうか?

私ならそれは天国から来た知らせとして歓迎するでしょう。なぜなら、解放、自由、回復はただ神様のみわざに他ならないからです。

アリヤーする過程の中にあるユダヤ人に寄り添うことにより(時には困難で絶望的な状況の中で)、私たちは神の御手の中の道具となり、神様が彼らを御自身の約束の地へと呼ぶことによってなされている回復の働きをする者とされました。「回復せよ」という言葉は、ヘブライ語の動詞の命令形で、原型は「shub」という言葉です。これは、聖書の中でもかなり広い意味合いで使われており、「連れ戻す」とか、「戻って来る」、しばしば圧迫の中で出発した所まで戻るという意味も持っています。

多くの場所で、「shub」という言葉は、「追放された場所から戻る」という意味もあります。これはまさに預言者イザヤがイザヤ書4章2節で、「…それを返せと言う者もいない。」言い換えるならば、それはまるでイザヤが「回復をもたらす人が誰もいない。誰もユダヤ人が約束の地に帰還する回復の預言的重要性に関心を持っていない。誰も慰めの言葉をかけていない。主の忠実さがなければ、彼らは一体今どこにいるだろう?」と言っているようです。それは一体どのような状況でしょうか?

「それを返せという者もいない。」イザヤ書4章2節



写真 右:ブネイ・メナシェの
オリム
ニューデリー空港にて



ちょっと考えてみてください。イザヤが今日ここにいたとしたら、神様がイスラエルの民に変わらぬ忠実さを保っておられるのに、国々の神の子供たちがこの回復のわざにはほとんど関心を持っていないことに驚かれるのではないかでしょうか。預言者イザヤは2700年前に語った言葉と同じ言葉を宣言されるのではないかでしょうか。「それを返せという者もいない。」

しかし長い年月が経って今もなお、神様のイスラエル回復への御計画は残っています。そして、それが二つの面を持っているとわかります。一つは物質世界、もう一つは霊的世界のものです。この過程において両面が神様にとって重要なものです。しかしながら、神の民の約束の地への物理的な回復は後者よりも先に来る必要があり、回復の働きの最初のステップは散らされた地からの回復です。この見方は、イザヤが次の章で宣言している言葉と一致しています。「恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集め。わたしは、北に向かって『引き渡せ』と言い、南に向かって『引き止めるな』と言う。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。」(イザヤ書43章5,6節)ですから、散らされた民を集めることは確かな出来事なのです。神様は誓っておら



れ、そしてそれを成し遂げられます。世界中からユダヤ人が彼らの故郷の地へ戻ることは、この地上の人々の前で神様の回復の力を表す証となるのです。

イザヤの宣言を考慮すると、現在のユダヤ人の散らされた状況には解決が必要であるとわかります。実際、オリムがイスラエルの地に帰還することへの期待は、私たちがアリヤー支援する度に満たされているのです。ですから、イスラエルと共に立つことを通して、私たちは回復の働きをする者となるのです。私たちが行う実際的な支援を通して、アリヤーの働きをする私たちはみな、ユダヤ人が安全に自分の真の故郷に帰るための長期的な橋を築いていることになります。

どんな小さな支援であってもそれは回復への叫びとなります。ユダヤ人が神に与えられた故郷へ帰る権利を守ることによって、この激動の時代にこの重要な回復の働きの過程の中での私たちの実際的な役割を見出すことは、私たちが神様の願われる目的のための器となることを意味しています。このことは、究極的には、私たち自身が神様の元へと戻ることとなります。そしてこの物理的な回復が遂には、神の民が御自身の元へと完全に回復されることへとつながるのです。

主は、終わらせるつもりのないことは決して始められません。神様の御名「YHVH」が表すように、主は御自身の約束を成就される日に、御自身の民を完全に回復されるのです。

愛する皆さん、制御不能に見える世界で、人々も道を失っている中、イスラエルの神はユダヤ人がイスラエルの地に回復するために、喜んで1ミリオンを歩こうとする民を見出しました。この働きに参加していただけますか?あなたは、神様の「帰らせよ。」という言葉の中にある、神様の変わらぬ大きな恵みを体験されることでしょう。

用語解説

アリヤー(Aliyah):
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):
1929年 C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):
イスラエルに帰還するユダヤ人



ベネズエラ



ノルマ・ラモス
Norma Ramos
メキシココーディネーター

上:ベルナルドと家族
右:危険を伴う川を渡るアリヤーの旅

ベルナルドはベネズエラ出身で、職業は弁護士です。彼のアリヤーの手続きには2年かかりました。彼の子供たちも双子の兄もイスラエルにいますが、彼は母親を置いて行きたくなかったので残っていました。それで、彼は多くのユダヤ人のアリヤーの準備を支援するために働くことに決めました。

エベネゼルとユダヤ人団体の助けによって、複雑な手続きの末に(彼女は「ユダヤ人の母親の難民」としてのアリヤーだったため)彼は遂に自分の母親をイスラエルへ連れて行くことができました。約束の地に行くには、コロンビアのボゴタから出なければなりませんでした。ベネズエラの政治的な状況により、カラカスからの出発は不可能でした。特別な許可証が必要となりました。

というわけで、ベルナルドと家族は、この許可証を受けるために、準軍事組織に出くわす危険を冒して、川をボートで旅してコロン

ビア自治体の元へ赴かなければなりませんでした。ベルナルドはエベネゼルがベネズエラのユダヤ人コミュニティに対してした支援に、深く感謝していました。



U S A



シャーリー・ローレンソン
Shirley Lawrenson
USAアリヤーディレクター

右:マイケルと家族

アメリカにおける反ユダヤ主義と不穏な状況が増すにつれて、私たちは、アリヤーのための支援の要請を今まで以上に受けています。緊急な要請が来ています。また、今こそ帰還の時だと互いに励まし合う責任を感じているようです。マイケルとその家族がこのように語っていました。

「私たちは自分の子供たちをユダヤ人の故郷の地で育てたいと思います。私たちの日毎の祈りで、私たちはユダヤ人がイスラエルへと帰還するように祈っています。そして、私たちも子供たちとともに帰還したいと願っています。」

この特別な人達が帰還するのを見て、驚くべきことだと思います。私たちはさらに多くの人々が帰還するための支援をしたいと思っています。そして帰還は多くの場合、彼らが長年夢見てきたことの成就なのです。

彼らが多くのチャレンジを乗り越え、数々の障害に打ち克つ時、彼らの心から語られる言葉を聞いて本当に感動します。皆さんの忠実な支援と祈りを通して、私たちが彼らを支援できることは本当に大きな祝福です。





無事全員飛行機に！

ある美しい火曜日、12人のユダヤ人たちがイスラエルへ飛び立とうとしていました。5人の子供を持つ家族が11個の荷物を、また、二人の子供を持つシングルマザーは9個の荷物を持っていました。そして、定年退職した夫婦がいました。彼らは2回の便に分かれて出発の予定でした。二番目の便は、最初の便の2時間後に出発することになりました。私たちエベネゼルチームは、彼らをパリのいろいろな場所に迎えに行ってから空港へ向かいました。

私たちは、このために、9人乗りの車と2台の車とトレーラーを用意しました。私たちが最初に迎えに行った人達は5人の子供のいる家族でした。空港に着いて荷物を降ろした時に、飛行機のターミナルが1キロ離れた別のターミナルに移動したことに気づきました。

もう時間がありません！私たちは荷物のカートを持って歩いて空港内を移動しました。ベビーカーや子供たちも一緒です。私たちには本当に助けが必要でした。その時神様は「たまたま」そこに立っていた人を通して助けを備えてください、彼は良きサマリア人のようにこの家族に付き添って手助けをしてくれたのです！



もう1台の車で、エベネゼルチームメンバーのディビッドが、二人の子供を持つシングルマザーを空港に送ってくれました。彼はその時のことと次のように語っていました。

「出発前の日、私たちは準備しながら、私がこの家族を車の後ろにトレーラーをつけてそれに荷物を載せて空港へ連れて行くことに決めました。この家族はパリの中心部に住んでいました。私にとって、トレーラーを使って一人で送迎するのは初めてのことでした。何という責任でしょう！私が行くと、この家族は荷物を外に出して私が着くのを待っていました。彼らは私たちを助けてくれたクリスチャンの友達と一緒にでした。

彼らが空港に向かう時に、ディビッドは、この家族は、フランスで台頭する反ユダヤ主義によってアリヤーを強いられたのだということを知りました。

空港では、ディビッドは、トレーラーをつけていたので、車を停めて荷物と人を降ろすために一時停止するのに苦労しました。しかし何とかこの家族が荷物を持ってターミナルに入るのを見届けると、彼は心から、「神様、あなたの助けを感謝します！」と祈りました。

フランス



クラウデ・ロッピン
Claude Loppin
フランスコーディネーター

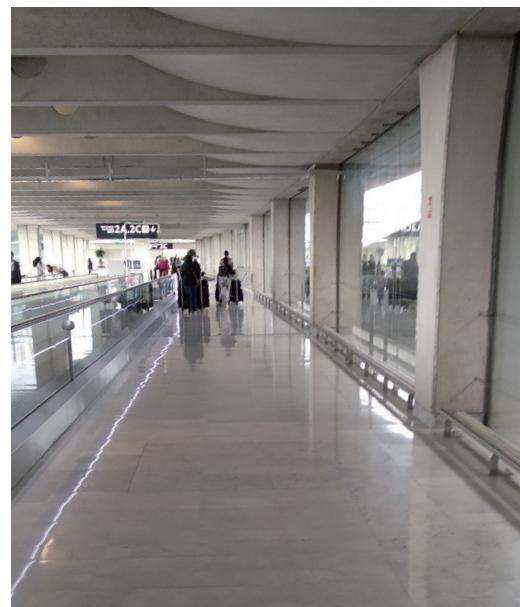


写真
左：空港「冒険」5人の子供を持つ家族
右：変更したターミナルへの移動

家族のイスラエル帰還 夢が叶う

アルゼンチン



ラウル・ルイル
Raul Roullie
エベネゼルアルゼンチン代表

主がみことばの預言の一つ一つを成就されるのを目の当たりにして、私たちはいつも驚かされます。アリヤーの働きにおいて、ユダヤ人の家族と出会い、彼らがラテンアメリカを出てイスラエルでの新しい生活を始めるための支援をする中で、私たちは特にそのことを意識しています。アイデス家族は、神様が散らされた民を彼らの昔からの故郷の地へと導いてくださる主の愛と忠実さを見ました

しかし、この家族は、この長年の夢はいつか叶う日が来るのだろうか、と何度も何度も思ったことでしょう。彼らは状況がよくなる見込みが全くない中、経済的に困窮していました。また他の面においても、アルゼンチンでの生活は時には耐え難いものでした。

私たちが彼らと語る度に、彼らの苦しみと国を出ることに対する不安、またできるだけ早くイスラエルへ行きたいという思いがあるのを感じました。そこで、エベネゼルのアルゼンチンチームは主に祈り、彼らがアリヤーするためにかかる莫大な費用が備えられるように祈りました。人間的には不可能に思えましたが、「荒野でマナ」を備え、「パンと魚を増やされた」主がこの家族のすべての必要を満たしてくださいました。

主は荒野に道を作ってくださいました。(イザヤ書4章19節)ですから今日この家族は全く違う人生を送っています。彼らは幸せで満たされています。両親は子供たちが友達に囲まれて成長するのを見ています。

私たちは、アルゼンチンを回りながら、アリヤーについて分かち合う中で、絶えず神様がこのように奇跡的に働いて下さるのを見ています。(イザヤ書4章5-7節)私たちにはしなければならないことがたくさんあります。なぜならユダヤ人社会は大きく、彼らには多くの必要があるからです。私たちは、牧師たち、多くの教会、また教会のメンバーの方々に感謝しています。彼らはこの働きを担い支援してくださっているからです。私たちは、祈りや経済的支援に支えられながら、神様の働きの一端を担うことができる特権を神様に感謝しています。



祈りの生活を築く

マルチン・ルターは言いました。「私たちを神様へと導くものが三つあります。それは、聖書と祈りと痛みです。」今日、混沌や混乱、そして激動の只中で、多くの人は神様から離れ、宗教の靈が教会にさらに影響を与えています。だからこそ、祈りは私たちが主のご計画を知るためになくてはならないものです。

私たちの主イエスは、働きの最も重要な時に、カルバリーに向かわれました。また、イエス様は弟子たちに、どのように苦しみに向こうかを教えました。「誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」(マタイの福音書26章41節)

イエス様は一人で祈られている時に三度弟子たちのところに戻りましたが、彼らは寝ていました。そして三度目にイエス様は、彼らがやがて起ころうとしていることのための準備ができていないと言われました。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。・・・」(45節)ここから、弟子たちは祈りの生活をしていなかったことがわかります。それで、神の子が捕えられて十字架にかけられることが父なる神のみこころだと理解することができなかったのです。

オリーブの山で起きたことは、神の時でした。このことが起こることが神の時だったのです。しかしひテロはこのことを知らなかつたので、ただ自分の主を守りたくて剣を取り出しました。

ペテロは人間的な考え方によって行動しました。これは私たちにとっても学びだと思います。祈りととりなしの生活を築いていかなければ、私たちは、神様の時や目的を理解することができずに、ただ起きた事柄だけに基づいて判断したり行動してしまうという危険の中にあるのです。

イエス様が持たれた祈りの生活を私たちも築いていくことが非常に大切です。イエス様の汗は血となつたたり、父なる神に向かってイエス様は叫び祈りました。「すると、御使いが天から現れて、イエスを力づけた。」(ルカ22章43節)これほど祈りをよく表している例は他にありません。

私たちがこのような祈りの生活を築いていくならば、聖靈様が私たちを助けてください、政府が神のみことばをないがしろにしないように、また教会が、神様がイスラエルとアリヤーのために持っておられるご計画について学ぶように、とりなしをすることができるようにしてくださるのです。

祈り



ステリータ&フレディー・バツ
Stelita & Freddy Batz
エベネゼル グアテマラ



RECENT ONLINE CON-



Translated subtitles are available on all our videos on [YouTube](#).



Visit events.ebenezer-oe.org for instructions on 'how to turn on subtitles'



On [YouTube](#) search: Ebenezer Operation Exodus

WATCH AGAIN ON YOUTUBE!



EBENEZER
OPERATION EXODUS

Do you use Facebook or Instagram?

Follow Us!



On Facebook search: Ebenezer OE International



On Instagram search: ebenezer_oe_eng





ハイファハウスを祝う

イスラエル



マルクス＆ラケル・アカーマン
Marcus & Rahel Ackermann
ハイファハウスリーダー

2年前に、エベネゼル出エジプト作戦は、新しい移民のためのハイファハウスを開設しました。これは、長年の夢の実現でした。この建物によって、ユダヤ人の帰還を助けるだけでなく、イスラエルに到着したばかりのユダヤ人のための最初の家を提供することができるようになりました。

私たちの家族は2019年7月1日にここに引っ越ししてきました。そしてボランティア達と一緒に改修工事を始めました。神様の恵みと素晴らしい一致の中で、私たちは夏の猛暑の中一緒に働き、大きな国際エベネゼルファミリーと、イスラエルからのゲストとともに、8月25日にこの家をオープンすることができました。ハイファハウスはまだ完成には程遠い状況ではありました、が、9月にはオリムを迎える始まりました。

ハイファハウスには、6つの部屋と15のベッド、3つのトイレ、台所と居間があります。1階部分は今も修復中ですが、3つの部屋と共同スペースがあり8人収容できます。

私たちにとって、このプロジェクトに関わり新しい移民たちが祖先の地に帰還するのを見ることは、特別な大いなる祝福です。私たちは彼らから多くの感謝を受けます。彼らはまた互いに助け合っています。彼らの間に調和と一致があるのを見て私たちはとてもうれしいです。彼らがよく言うことです、が、このハイファハウスで彼らは本当に快適で特別な雰囲気を感じるということでした。これは私たちを取り囲む多くの祈りによるものであり、イスラエルの神であるお方が愛をもって私たちを見守ってくださっているということを、私たちは知っています。

もちろんチャレンジはたくさんあります。特に異なった文化や言語や背景を持つ人達との関わりはチャレンジです。私たちも家族として、オリムと同じようにイスラエルでの生活に適応するために葛藤しているので、移民達が、面倒な官僚主義や考え方の違いによって落胆している時、それを理解することができます。アリヤーすることはそれ自体チャレンジですが、神の民がイスラエルに植えられることは神のみこころです。ですから、神様がそれを祝福してくださるのです！



写真 上:ハイファハウス
下:ハイファハウスの内部



Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒 062-8691 豊平郵便局私書箱 37 号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
<http://ebenezerjapan.org/>
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に 3 人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた 25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。